

令和2年度第2回武豊町都市計画審議会 議事録

1 開催日時 令和2年10月29日(木) 午後2時00分

2 開催場所 武豊町役場 第2・3会議室

3 議 題 議案第1号
武豊町都市計画マスタープラン(案)について

4 出席者 学識経験者 土屋 富好
学識経験者 榊原 延幸
学識経験者 原田 時男
学識経験者 木村 保夫
学識経験者 岩瀬 計介
武豊町議会議員 甲斐 百合子
武豊町議会議員 梶田 進
武豊町議会議員 青木 信哉
武豊町議会議員 石川 義治
武豊町議会議員 森田 義弘
武豊町議会議員 大岩 保
武豊町議会議員 鈴木 一也

欠席者 学識経験者 天木 一馬

事務局 建設部長 犬塚 敏彦
都市計画課 明壁 直久、高橋 道生、石川 恭太、
榊原 利幸、鬼頭 瑛

5 会長選出

武豊町都市計画審議会条例第5条第1項の規定により、委員の互選による選出方法を提案したところ、全会一致で承認された。立候補及び推薦がないことを確認後、事務局より榊原延幸委員を推挙し、全会一致で承認された。

6 職務代理者の指名

武豊町都市計画審議会条例第5条第3項の規定により、土屋富好委員を職務代理者に指名した。

7 議事録署名委員の指名

武豊町都市計画審議会運営規程第9条第1項により、甲斐百合子委員及び梶田進委員を議事録署名委員に指名した。

8 会議開催要件の確認

議長を除き11名の出席者につき、武豊町都市計画審議会条例第6条第2項の規定により成立。

9 審議内容

議長が議案第1号に関する説明を求め、事務局より議案説明を行った。以下、説明内容。

本年5月に実施した書面会議以後、町の職員により構成する「都市計画マスタープラン作業部会」にて計画の素案を検討し、都市計画に関する学識経験者、各種団体代表等により構成する「策定委員会」のご意見、ご助言を踏まえて、資料1のとおり本計画案をとりまとめた。

審議会委員のみなさま方には、第5章「全体構想」の将来都市構造図までご覧いただき、既にご意見も頂いているが、本計画案の目的も含め、目次から、通しでご説明させていただく。

第1章は「計画の位置づけ」。本計画の目的や役割、目標年次などになる。

第2章は「現況特性」。本町の人口や産業などの現況と本町の特性について説明している。

第3章は「住民意向の把握」。本計画を策定するにあたり、まちづくりについての住民意向を調査するため、18歳以上の町民3,000人を対象に、昨年、令和元年9月に実施したアンケートの結果を整理している。

第4章は「課題の整理」。第2章の現況特性、第3章の住民意向を踏まえ、考慮すべき課題を整理している。

第5章は「全体構想」。武豊町全域の視点で「まちの将来像」や「都市づくりの目標」について定めると共に、「分野別の方針」として、土地利用の方針や道路・交通環境整備の方針など8つの方針について記載している。

第6章は「地域別構想」。武豊町の4小学校区の地域に分け、各地域の「まちづくり構想」について記載している。

最後、第7章は「実現化方策」。計画の実現のための方策や、計画の見直しの方針について記載している。

(以後、各章毎に内容について説明)

以上が、「議案第1号 武豊町都市計画マスタープラン(案)について」の説明である。

ご意見等をお伺いしたい。

10 質疑

(委員)

P.38「都市づくりの目標」目標①の中で、「高齢者が日常生活に必要な都市機能のサービスを容易に享受できる市街地を形成する」としている一方、「公共施設の移転・集積等」と相反する表現となっている。これは、大足地区の高齢者「憩いのサロン」が利用したくても近所になかったといった現状もあるが、どう考えているのか。

また、大足地区はサロンを老人憩いの家で実施しているが、例えば、空き家対策として除去だけではなく、空き家を利用したサロン事業の実施はどうか。

(説明者)

ここで想定している「公共施設の移転・集積等」とは、すべての施設というわけではなく、P.66【保健福祉施設】の「主な施策」に「憩いのサロンの新規開設に向けた地域との連携」を挙げているように、憩いのサロンは地域に根差した機能として、地域で設置するものとして別で考えている。

その際、空き家の利活用についても、P.47【商業地区】の主な施策 2 番目の○中「低未利用地を活用した広場や道路等の公共空間の確保の検討」にあるように、直接的な表現ではないが、活用できる場所があれば、福祉関連部署と連携して実施出来たらと考えている。

(委員)

P.38「都市づくりの目標」目標②の中で、「豊かな自然環境と共生する」と挙げている一方、P.44「将来都市構造（案）」では、南知多道路の 2 つのインターチェンジ付近で産業系土地利用検討ゾーンを設定している。水田は保全すべきであり、休耕田に花を植えて観光的利用や、災害時の貯水機能としても重要である。田を埋めて産業用地にするのはいかがなものかと思うがどうか。

(説明者)

P.48【土地利用検討地区】に記載しているように、「広域交通の利便性が高い地域において、自然環境の保全に十分配慮しながら、新たな産業地の確保に向けた検討を行います。」とし、単に水田を埋めて用地を確保するのではなく、環境を配慮した上で検討を進めたいと考えている。

(委員)

P.53 ア．緑の保全について、1 番目の○中「社寺林などの身近な緑を地域と協力しながら保全します。」とあるが、政教分離の原則からすると宗教と町の関りをどう考えているのか。

(説明者)

計画書の該当部分にも記載しているが「地域と協力しながら保全します。」とあるように、

行政主体ではなく、あくまで地域と協力し、保全を促す形で進めたいと考えている。

(委員)

P.53 イ. 公園整備について、2番目の○「南西部の丘陵地において(中略)総合公園の整備を計画します。」とあるが、計画は既に決定済みではないのか。

(説明者)

現整備計画は策定から相当の年数が経過しているため、現状のニーズに合った整備計画への見直しを考えている。

(委員)

P.63 ウ. 魅力ある町並み景観形成について、1番目の○「大足地区のみそ蔵のある風景は、地場産業である醸造業の営みによって形作られた貴重な町並みであり、このような町並み景観を大切に保全し」とあるが、地場産業として生業として継続する事業計画が必要と考えるがどうか。

(説明者)

計画書の該当部分後段にも記載しているが、「今後も生業を継続していくことに配慮しながら地域のまちづくりに活かします。」とあるように、生業を営んでいる方の考えを優先し、景観形成を進めたいと考えている。

(委員)

P.88 富貴地域の「住民アンケート結果」によると、町全体の結果では満足度が高い「日常生活(通勤・通学・買い物)の利便性」、「医療・介護・福祉関連施設の利用しやすさ」がこの地区のみ、共に満足度が低い結果となっている。今後どのように対応していくのか。

(説明者)

P.42 将来都市構造の【拠点】にも記載があるように、「名鉄富貴駅周辺を本町南部における核として地区拠点に位置づけます。地区拠点では暮らしに必要な機能が整った南部地域の暮らしを支える拠点形成を図ります。」とし、地区拠点にふさわしい整備を促進する考えである。

(委員)

P.93 「④町民協働による都市づくりの推進」について、行政が計画等を決定する前に、ワークショップ等の手法で住民の意見を十分に取り入れることが重要と考えるがどうか。

(説明者)

計画書の該当部分に「各種計画づくりや都市づくりの実践の場への参加機会の拡充を図ります。」と記載しているように、都市づくりの際には、ご指摘のワークショップ等の手法を

意識して積極的に導入していきたい。

(委員)

P.43、44 第3次産業の立地促進が課題に挙げられている。そこで、都市拠点に近接する「土地利用検討ゾーン」は、住居系と産業系の両面で検討するとあるが、産業には商業も含んでいるのか。

(説明者)

P.40【産業系市街地】土地利用フレームにおいて、将来必要な面積規模の算出には商業用地も含んで検討しており、商業での活用も想定している。

(委員)

P.32【防災に関する課題】「古くからの市街地における防災性の強化」とあるが、「防災性」という語句が一般的ではないと思う。

(説明者)

「防災性」を「防災機能」に修正する。

(委員)

【防災に関する課題】「古くからの市街地における防災性の強化」のうち、「JR 武豊駅周辺、名鉄上ヶ駅周辺の古くからの市街地」とあるが、他にも古くからの市街地が存在するかどうか。

(説明者)

「JR 武豊駅周辺、名鉄上ヶ駅周辺」の後に「等」を挿入する。

(委員)

P.37 (3) 都市づくりの目標の表中「課題」【交通に関する課題】「3 武豊北インターチェンジ(仮称)の整備促進」とあるが、書面会議時点では「～(仮称)の周辺道路の整備促進」となっていた。開通後に渋滞が懸念される中、以前の表現の方がいいと思うがどうか。

(説明者)

同様の記載がある P.32 も含め、「武豊北インターチェンジ(仮称)の開通に伴う周辺道路の整備」に修正し、関連する記述も表題に合わせて修正する。

(委員)

元号と西暦の表記はどう整理しているか。特に P.39 図表「将来人口」は西暦のため整理していただきたい。

(説明者)

本文中は西暦と元号を併記している。表は元号に統一するよう修正する。

11 その他

事務局より、資料2に添って、今後の策定作業予定について、11月4日から12月4日までのパブリックコメント実施、作業部会、策定委員会、町長から本審議会への計画諮問・答申を経て、今年度中の計画公表を予定している旨を説明。